

固定電話の番号ポータビリティに係る 検討状況について

2024年11月18日



I .現行の番号ポータビリティの運用方法

現行の番号ポータビリティの運用方法(1/2)

- ✓ 現行の固定電話における番号ポータビリティは、旧郵政省での研究会等を経て、NTT東西の加入電話等の契約時に取得した電話番号からの番号ポータビリティのみを行ういわゆる「片方向番号ポータビリティ」を2001年3月より開始しております。
- ✓ 現在は、0ABJ番号の指定を受ける事業者様のうち、16※の接続事業者(NTT東西を含む)が参画しております。
- ✓ 番号ポータビリティの申し込みにあたっては、お客様が移転先事業者へ申込を行い、その後、移転先事業者が移転元事業者との間で手続きを進めるワンストップ方式による運用を行っております。

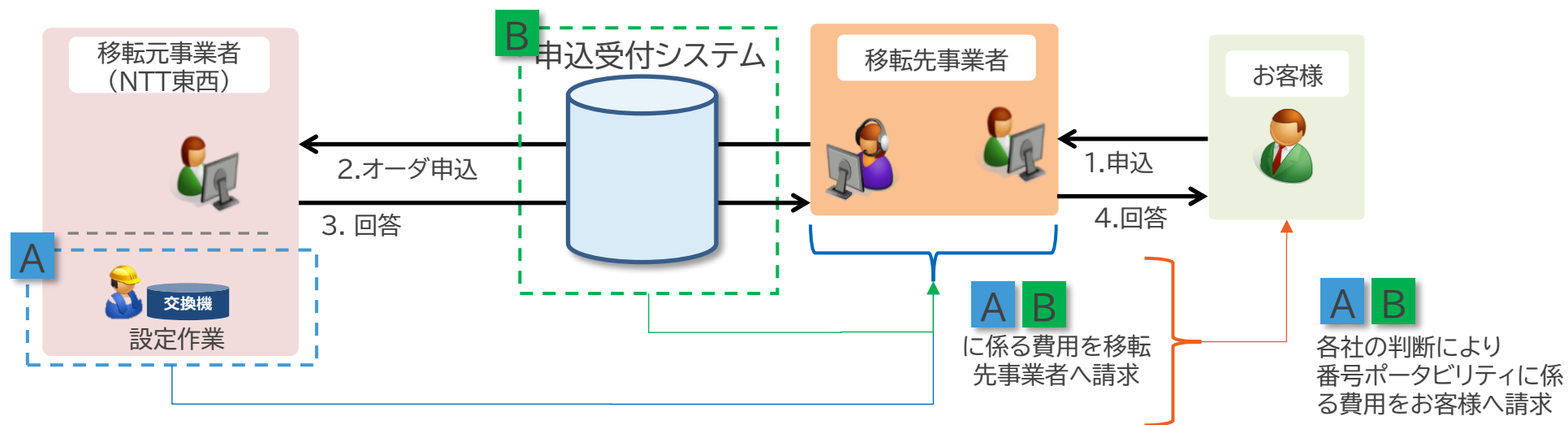
※株式会社アイ・ピー・エス・プロ、アルテリア・ネットワークス株式会社、株式会社STNet、NTTコミュニケーションズ株式会社、株式会社エネコム、株式会社オプテージ、株式会社QTnet、KDDI株式会社、Coltテクノロジーサービス株式会社、ZIP Telecom株式会社、ソフトバンク株式会社、中部テレコミュニケーション株式会社、株式会社トークネット、楽天モバイル株式会社、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社

現行の番号ポータビリティの運用方法(2/2)

4

- ✓ 番号ポータビリティの実施にあたっては、**A** NTT東西の交換機に対し移転先事業者情報を設定する作業に係る費用※及び**B** 事業者共通で利用する申込受付システムに係る費用※が発生し、当該費用は移転先事業者が負担しております。
(お客様への費用請求は各移転先事業者の判断により実施)

<片方向番号ポータビリティ申込手続き概要>



※NTT東西の接続約款で規定する工事費及び手続費。NTT東西は番号移転先事業者へ請求を実施。



Ⅱ.双方向番号ポータビリティ開始に向けた検討状況

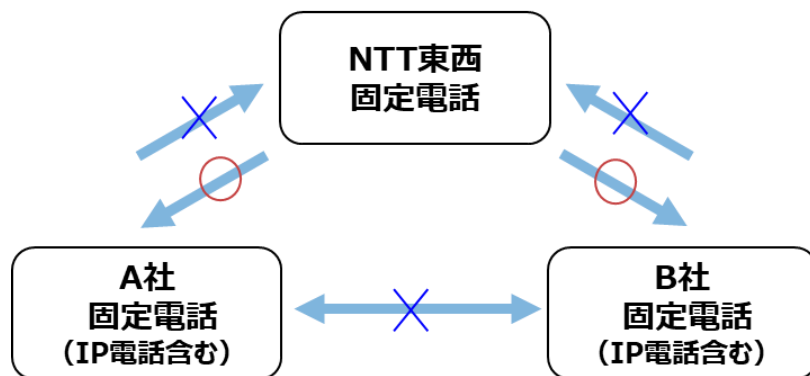
双方向番号ポータビリティ開始について

6

- ✓ 固定電話サービス提供する接続事業者18社※1は、「固定電話サービス提供事業者間における双方向番号ポータビリティ」(以下、双方向番号ポータビリティ)の受付を2025年1月より開始予定です。
- ✓ 今後は、ひかり電話専用番号※2や各固定電話サービス提供事業者の固定電話の契約時に取得した固定電話番号※3をご利用のお客さまも、現在ご利用中の電話番号のまま事業者を選択できるようになります。

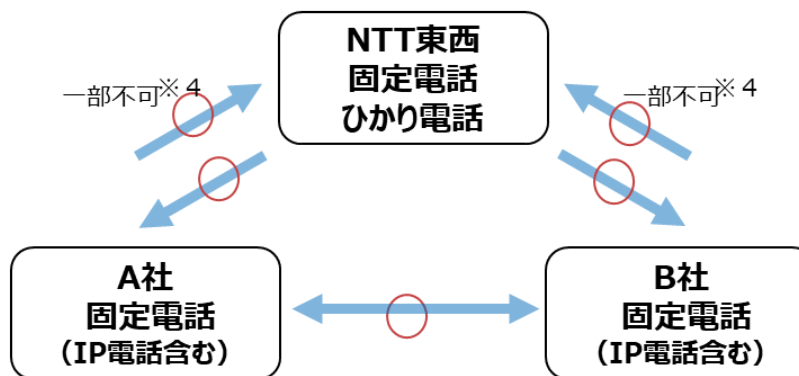
＜現在＞

0AB-J番号を事業者間で引継ぎ
(NTT東西からの片方向)



＜双方向番号ポータビリティ開始後＞

0AB-J番号を事業者間で引継ぎ
(事業者間の双方向)



※1 片方向番号ポータビリティ対象事業者に、大江戸テレコム株式会社、株式会社三通を加えた全18社

※2 ひかり電話専用番号・・・ひかり電話新規お申込み時に新たに取得した電話番号

※3 0AB-J番号(東京では03などから始まる電話番号)が対象

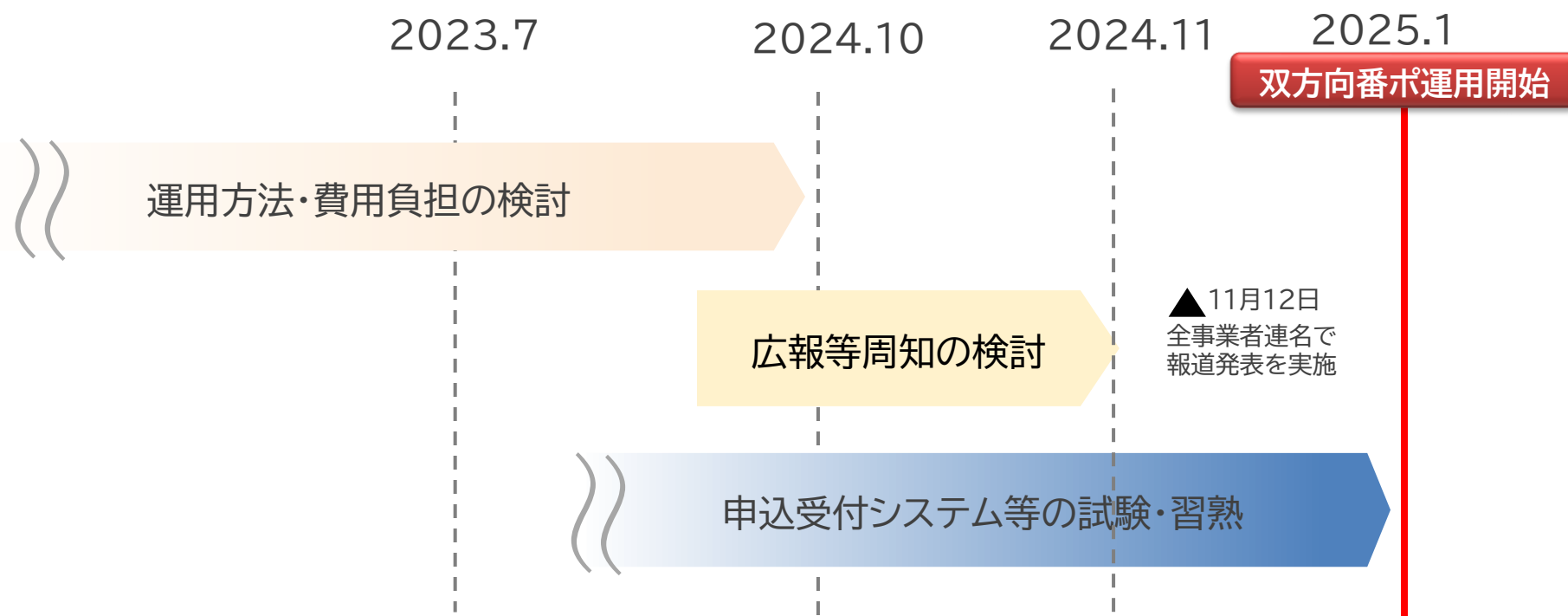
※4 「ひかり電話専用番号」及び「NTT東西以外の固定電話番号」のNTT東西固定電話への番号ポータビリティは不可

接続事業者間での検討状況(1／2)

7

- ✓ 2025年1月からの双方向番号ポータビリティの開始に向けて、固定電話サービス提供事業者18社の間で運用方法等の協議(計88回)を実施してきました。
- ✓ 既に運用方法・事業者間での費用負担についての検討は完了しており、現在は、双方向番号ポータビリティに関するお客様のご理解を促進するための広報等周知の検討や、事業者共通で利用する申込受付システムと各社様の業務システム間での試験等といった準備を進めているところです。

<双方向番号運用開始までの全体スケジュール>

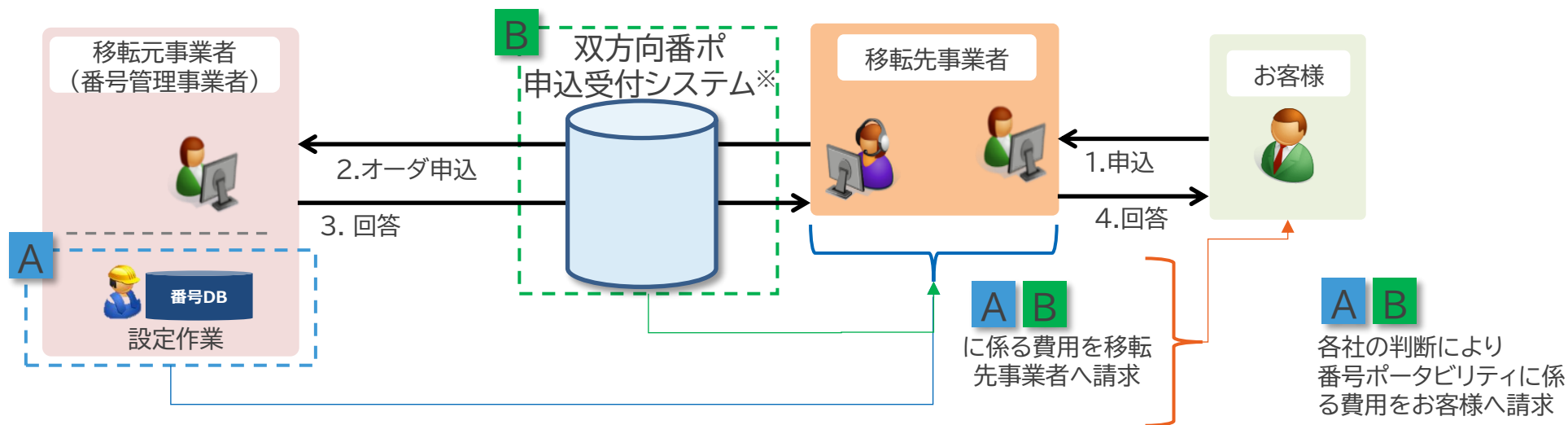


接続事業者間での検討状況(2/2)

8

- ✓ 申込方法については、現行の片方向番号ポータビリティ同様、ワンストップ方式とすることで事業者各社が合意しております。
- ✓ 事業者間での費用負担については、**A** 番号管理事業者の番号データベースへ番号の移転先事業者情報を設定する作業に係る費用及び **B** 事業者共通で利用する双方向番号申込受付システムに係る費用が発生することから、その費用の扱いについて検討した結果、現行同様、移転先事業者が費用負担することで合意しました。
(お客様への費用請求は各移転先事業者の判断により実施)

<双方向番号ポータビリティ申込手続き概要>



※事業者間での議論の結果NTT東西にて構築したものを事業者間で共用する。

固定電話の番号ポータビリティの運用方法比較

- ✓ 双方向番号ポータビリティの開始後は、番号ポータビリティ可能な電話番号が拡大することとなりますが、受付方法等については現行と同様となる予定です。

	片方向番号ポータビリティ (現行)	双方向番号ポータビリティ
ポータビリティ 対象電話番号	NTT東西の加入電話等の契約 時に取得した電話番号のみ※1	ひかり電話専用番号や各固定電 話サービス提供事業者の固定電 話の契約時に取得した固定電話 番号も含む全ての電話番号※1
利用者の受付方法	ワンストップ方式	同左
利用者の申込窓口	コールセンタ、WEB、法人営業 担当者による対面受付等※2	同左
事業者間の費用負担	移転先事業者が負担	同左
お客様への費用請求	各移転先事業者の判断により 実施※3	同左

※1 技術的な困難性や利用者への影響等を勘案して除外されるものは除く。

※2 事業者により異なる場合あり。

※3(参考)NTT東西の場合、ひかり電話へ番号ポータビリティを行う場合は、同番移行工事費2,200円(税込)。

その他番号ポータビリティ特有の費用とは別に、ひかり電話の新規開通に係る工事費等が発生。